

よりよく生きるための 心のチカラ

社会福祉法人花巻保健福祉会

若葉保育園 園長 中村 憲

こどもの将来の収入を上げよう

- スポーツをする
- リーダーになる
- ○○○○を高める



スポーツをすると

- 採用で有利になる
- 忍耐力やリーダーシップが身につく
- 勉強時間が増える→テレビやスマホを見る時間を減らす
- よい効果は女子の方が大きい
- 欠席が減る
- 自尊心が高まる

リーダーになると

- 採用に有利になる（面接に呼ばれる確率があがる）
 - 学力が高くなる → 勉強時間は減る
→ 勉強への意欲・自主性が高まる
 - リーダーシップスキルが高まる
- ※リーダーシップは経験により身につく→後天的に身につくもの

偏差値の高い学校にいくと こどもの将来の収入はあがる？

- 将来の収入との相関は見られない
※同じ能力を持っていると思われる大学生を比較
- 入学後の学力を高める効果はほとんどない
※同じ能力を持っていると思われる高校生を比較
- 学力テストの点数は将来の収入の一部しか説明できない

「鶏と口になるも、牛後になるなかれ」は本当

小学校の順位は 中学校の成績を上げる？

- 将来の収入や最終学歴に影響を与える
 - ※小学生時に同じ学力と思われる中学生を比較
- 女の子より男の子に影響を与える

→ 親と先生からの対応

自信、自己効力感（自分ならきっとうまくできる）

肯定的な勘違い？？？

認知能力 = 学力

テストの点数によって評価できる力

読み・書き・そろばん、IQ、英語力、、、

非認知能力 (社会的情動スキル：OECD)

テストの点数によって評価できない力

忍耐力、自制心、回復力、意欲、楽観性、自信、
共感性、協調性、社交性、、、

認知能力 VS. 非認知能力

- 認知能力と非認知能力は対立するものではない
- 非認知能力と認知能力は互いに補い合い、高めあう
 - ex) 感覚・運動が発達していく中で、徐々に認知機能が育っていくし、感情も発達していく
- 認知能力は伸ばすほどよいが、非認知能力はプラスの面とマイナスの面がある
 - ex) 自尊心：＋自分の可能性を信じることができる
 - －無謀な挑戦に挑み、リスクの想定が苦手

非認知能力を整理してみよう

▶やる気系

【自分を高める力】

- ・意欲、向上心
- ・自信・自尊感情
- ・楽観性など

▶がまん系

【自分と向き合う力】

- ・自制心
- ・忍耐力
- ・レジリエンス
(回復力) など

▶つながり系

【他社とつながる力】

- ・コミュニケーション能力
- ・共感性
- ・社交性、協調性など

どうして今、非認知能力？

- AI：たくさんの情報をより速く、間違いなく処理する
「学力」
- 人間力：相手に共感しながら、他者に働きかける
意欲をもって、自分のやりたいことや
だれかのためになることをやる
「非認知能力」

人間とAIのパートナーシップ

VUCAを生きる

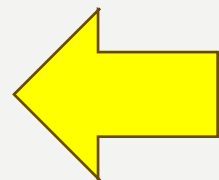
VOLATILITY : 変動性
UNCERTAINTY : 不確実性
COMPLEXITY : 複雑性
AMBIGUITY : 曖昧性

「将来予測が困難な時代」
「過去の経験が通用しない時代」

→ 変化への対応力
変化への柔軟性
新しい価値の創造

VUCAの時代に求められる力

- 行動力
- 仮設思考力
- 問題解決能力
- 情報収入能力
- 創造的思考力
- リーダーシップ
- チームワーク
- コミュニケーション能力
- 迅速な意思決定



テストで測れる？

いつから非認知能力を育むか？

- 0～3歳児（乳幼児期）

感情の調整や基本的な対人スキルが養われる

親や周囲の大人と関わり、安心感を持ち、自己肯定感が育まれる

- 3～6歳（幼児期）

社会性が高まり、他者と協力したり、交渉する能力が養われる

自己規制能力（欲求を抑える力）や遊びながら問題解決能力が発達する

- 6歳以降（小学生）

コミュニケーション能力や忍耐力が伸びる

集団生活を通して、ルールや責任感を学ぶ

発達における感受性期

【ルーマニアの孤児院研究】

劣悪な環境下での保護（必要かつ適切な刺激を受けられず）

→ 愛着障害、情緒不安定、IQの低下、言語、身体的、
脳等の発達の遅れ、不安症、憂うつ症、無気力、
情緒的な冷淡さ、信頼関係の構築

・ 里親プロジェクト

0～2歳 回復が見られた

3歳以降 回復が難しかった

乳幼児期からの愛情や社会的刺激が大切

演習 I

乳幼児期の非認知能力を探してみよう

好きなものに夢中になる力
なぜかな？ どうしてかなと思う力
失敗しても繰り返し挑戦する力
自分はそのままの自分でいいと思う力
やりたいという意欲を持つ力
気持ちの切り替えができる力
自分の意見を言える力

演習Ⅱ

育まれている非認知能力をみつけよう

【0歳児】9か月、10か月

スズランテープを裂いた物を繋げ、カーテンのようにして保育室に設置してみる。さっそく〇〇は、興味を持ち、手を伸ばした。手を揺らし、カーテンに当たるとシャカシャカとした音が鳴り、繰り返しその感触を楽しむ。一方、〇〇は、普段見慣れない物に対して臆病な面があるので、少し泣いていたが、保育者が楽しく遊ぶ雰囲気をつくると、スズランテープが揺れる動きをじっと眺めたり、そっと自分から手を伸ばしたり、カーテンを楽しむ様子が見られた。様々な素材に興味をもち、自分で触れて楽しむ経験を増やし、豊かな感性が育めるよう活動を工夫していきたい。

【2歳児】

越場公園に散歩に行く。〇〇と〇〇は山を見つけると、そちらの方向へ歩き出したが、立ち止まってじっと見つめており、興味をもっていることが窺えた。

「一緒に行ってみようか？」と声をかけると、頷いて保育者の手を握り、3人で坂道を上ることに挑戦することになった。2人とも真剣な表情で慎重に歩き出し、頂上に到着すると笑顔へと変化する姿から、「ここまで来れた」という嬉しさを味わっていることが伝わってくる。

勇気を出して挑戦した姿を十分に認め、喜びに寄り添った言葉かけをすると、誇らしげに保育者の話に耳を傾けていた。その後、〇〇は一人で繰り返し挑戦し、成功すると保育者に視線を送りハイタッチを求める姿が見られるようになり、自分の力を試してみたい、できた喜びを共有したいという気持ちが感じられる。

達成感を味わい、伸び伸びとした空間の中で挑戦することのよさにも気づき始めているように見え、成長を感じた。

演習Ⅲ

看護師として非認知能力を育もう

1. 看護師として、子どもとのかかわり（具体的な行動）を振り返ろう
2. それぞれの行動に対する子どもの反応と心の動きを考えよう
3. 心の動きから育まれている非認知能力を考えてみよう

実践研究（エピソード記録）

看護師として非認知能力を育もう

1. 看護師として、子どもとのかかわり（具体的な行動）を記述する
2. それぞれの行動に対する子どもの反応と心の動きを記述する
3. 心の動きから育まれている、あるいは育みたい非認知能力を考える
4. その非認知能力を育むための働きかけを考え、実践する

※ 3, 4 は一体的であっても構わない

【5歳児】

保育者より5歳児の〇〇が園庭で運動会の練習中にコーナーで滑って転び、膝を擦りむいたと〇〇の手当をお願いされた。痛さとショックのため、〇〇は泣いていたが、傷口の消毒の必要があったので、流水で膝を洗うことにした。「傷に土がついているから、きれいにあらうよ」と話したが、〇〇は傷口を洗うことをいやがってさらに泣いた。

転んでしまったショックをまだ引きずっているのかもしれないし、血のにじむ傷口が水が触れることでさらに痛むという不安があったのかもしれない。また、これからの処置に見通しがなくて不安に思っているのかもしれない。

まずは、練習をがんばったことを誉め、速く走りたかった気持ちに共感することで、気持ちの切り替えを促して落ち着かせた。（気持ちを切り替える力）また、流水ははじめに少ししみるが、すぐ慣れることを話し、不安を取り除きたいと思った。傷口を流水で洗う、消毒液で消毒する、絆創膏をはるなどのこれからすることを伝え、見通しを持てるようにした。（見通しを持つ力）傷口をきれいにして、絆創膏をはれば、すぐよくなるから少しの痛みはがまんしようねと伝えた。（目的のために我慢する力）